

七十七ビジネス大賞受賞

第14回(平成23年度)

企業 インタビュー

Interview

株式会社東北イノアック

代表取締役社長 鈴木 伸明 氏



会社概要

住 所：遠田郡美里町北浦字二又下28番地

設 立：昭和39年

資 本 金：50百万円

事業内容：プラスチック等加工製品製造業

電 話：0229 (34) 2111

U R L：http://www.inoac.co.jp/ja/

永年にわたり築き上げた技術力・開発力を 活かし150社以上のメーカーに部品を供給、 幅広い産業分野のサプライチェーン を担うプラスチック等加工製品製造業

今回は「七十七ビジネス大賞」受賞企業の中から、株式会社東北イノアックを訪ねました。当社は昭和39年に愛知県名古屋市に本社を置く井上護謨工業株式会社の製造子会社として、宮城県美里町に設立し、自転車用チューブやプラスチック製品の製造を開始しました。現在は自動車やIT機器等の部品・建築資材・自転車用タイヤ等を製造し、幅広い産業分野のサプライチェーンを担っています。当社の高橋裕司専務に、創業から今日に至るまでの経緯や事業内容、経営理念等についてお伺いしました。

——七十七ビジネス大賞を受賞されたご感想をお願いします。

当社がこのような名誉ある賞を頂けるとは正直考えてもいませんでした。大賞を受賞した後は、多くの方々から祝福のご連絡も頂き本当に嬉しく思っています。当社がこのような賞を頂けたのも、お客様をはじめ、地域の皆様に支えられてきたからだと思えます。当社が美里町で事業を開始してから、来年の4月で50年を迎えるのですが、東北のこの地で長年事業を継続してきて本当によかったという思いを改めて感じています。

サプライチェーンとして

——創業から今日に至るまでの経緯について教えてください。

当社は、昭和39年に愛知県名古屋市に本社を置く井上護謨工業株式会社の製造子会社「東北井上護謨工業株式会社」として宮城県美里町に設立しました。なぜ東北で創業したかという点、当時、取引先である大手家電メーカーが東北に進出してくることがきっかけとなったと聞いております。設立当初、

小牛田工場では自転車用チューブやプラスチック製品をメインに製造していました。当時製造していたプラスチック製品は、トランジスタラジオのプラスチック成型がメインでした。そして昭和44年にゴム製品に特化した若柳工場を建設し、自転車用タイヤや工業用ゴム製品の製造を開始しました。以降、自転車用チューブ・タイヤ、プラスチック製品を中心に製造する中で、取り扱い品目を徐々に増加させていきます。例えば、昭和53年には住宅等に使用される水道用のポリエチレン管の製造（現在は関連会社である株式会社イノアック住環境で製造）、昭和55年にはアメリカの住宅建材メーカーのセロテックス社との合弁会社井上セロテックスを設立して、断熱材の製造、平成10年からは自動車関連部品の製造を開始しました。自動車関連部品は品質基準も価格設定も非常に厳しく、始めたばかりの頃は大変苦労しましたが、最近では、当社の技術力を認めていただきハイブリット車の部品を任せていただいております。

現在では、情報機器関連部品等も加え、時代の流れやお客様のニーズに合わせて、幅広い産業分野の約150社以上のメーカーのサプライチェーンを担い、様々な製品を提供しています。



自動車部品

——社名の由来について教えてください。

平成2年に親会社である井上護謨工業株式会社がイノアックコーポレーションに社名変更したことに伴い、当社も「株式会社東北イノアック」に社名変更しました。「イノアック」とは「イノベーション」

と「アクション」を組み合わせた造語です。社名のとおり、常に革新（イノベーション）を続け、それを実行（アクション）していくことを目標に事業展開しております。

美しい森をつくる

——経営理念についてお聞かせ下さい。

イノアックコーポレーションは日本で初めてウレタンフォームの生産を開始した会社で、現在では国内外の子会社・関連会社によりイノアックグループを形成し、グローバルに事業展開しています。

イノアックグループで「1本の大きな木を育てるより多くの個性ある木を育て美しい森をつくる」という経営理念を定めています。お客様の暮らしや地域経済を豊かにしたいという思いから、ひとつの事業のみに特化するのではなく、ゴム、プラスチック、ウレタン等、様々な事業（＝木）に取り組み、幅広い産業分野に製品やサービスを提供することにより、社会（＝森）に貢献していきたいという思いが込められており、当社もイノアックグループの一員としてこの経営理念を基本に事業展開しています。

更に、東北イノアックとしては「自立経営」を目標としています。親会社に頼らずに東北で自立できる会社を目指していきたいと考えています。そのためには、ひとつの事業に過度に集中せず、様々な産業の部品をバランスよく製造し、供給していくこと、そして、東北の地で色々な製品を開発していくことが大事であると思います。



小牛田工場の風景

——製造製品について教えてください。

当社では、主に①自動車関連②情報機器関連③自転車用タイヤ④建築土木の4つの産業分野の製品を製造しています。

自動車関連では、内装成型品や外装用成型塗装品、ヘッドレスト等を製造しています。昨年（平成23年）9月末の実績では、自動車関連が売上全体の約3割を占めていましたが、今年は約6割を占めると予想しています。

情報機器関連では、プリンターなどに利用される部品やパソコンの外側部分にあたる筐体（きょうたい）等を製造しております。昨年は売上全体の約4割を占めていましたが、今年は急激に低くなっています。震災の影響もありますが、昨年タイで起きた洪水が1番の原因です。直接当社に被害があったわけではありませんが、タイに工場をお持ちのお取引先が生産をストップしてしまったため、当社の部品製造もストップすることとなり、結果として売上の減少につながりました。

自転車用タイヤ関係では、ロードレース用のロードタイヤやクロスカンントリー用のマウンテンバイクタイヤ、シティサイクル用のシティタイヤ等を製造しています。人々の生活を支えるタイヤから、レースを勝ち抜くためのタイヤまで、幅広く製造しています。

建築・土木関係では、断熱材や各種給水給油パイプ、住宅の外壁のつなぎ等に使うゴムパッキン等を製造しています。

当社の製品は、自動車、パソコン、住宅等で目に見えない部分に幅広く使用されているため、当社製品とはなかなか気付かないのですが、日常的に使用している様々な製品の中には当社の製品が数多く入っているのです。

——工場について教えてください。

美里町の小牛田工場、栗原市の若柳工場、岩手県北上市の北上工場の3工場で製造を行っています。

小牛田工場では、自動車関連部品や情報機器関連部品、断熱材などを製造しています。グループ会社である株式会社イノアック住環境の工場も併設していて、水道用のポリエチレン管なども製造していま

す。

若柳工場では、自転車用タイヤや車いす用タイヤを製造しています。現在、ゴム製品に関しては海外からの輸入が増えてきていますが、自転車用タイヤは当社のスタートラインでもありますので、規模が縮小しても製造は続けていきたいと考えています。また、自動車用製品として自動車のヘッドレストも若柳工場で製造しています。

北上工場は、平成19年に自動車の内装成型品、外装成型品の製造工場として建設しました。当初はイノアックコーポレーションの工場として稼働していましたが、平成21年から東北イノアックの工場として稼働しています。

この3工場で約5,000種類の製品を製造しています。一番多く製造している製品は自動車関連で、次に情報関連が多いと思います。製造割合は、小牛田工場60%、北上工場15%、若柳工場25%です。



外装用成型塗装品



プリンター用ロール

業界初の不燃認定取得

——断熱材「サーマックス」について教えてください。

「サーマックス」というのは、イソシアヌレートフォームというウレタン発泡材を特殊な機能を持った各種表面材で挟んだ製品で、壁や床、天井

の断熱材として使用されています。イソシアヌレートフォームは非常に細かい泡（フォーム）を形成していて、外気の影響を受けにくいので、高い断熱性を実現しています。その他の特徴としては、①耐熱性が高い②発火点が高い③不燃材料認定④ノンフロンの⑤軽量などが挙げられます。

これまでの断熱材にはフロンを含む硬質ウレタンフォームが用いられていましたが、当社ではフロンではなくペンタンガスという発泡剤を使用することで、「脱フロンのノンフロンの断熱材「サーマックス」の製品化を実現させました。日本では当社だけが「サーマックス」を製造する装置と技術を有しており、平成21年には国土交通大臣による不燃認定を業界で初めて取得しました。ウレタン系の断熱材で不燃認定を受けているのは、日本では当社だけではないかと思えます。また、このような点が評価され、平成22年には「第2回みやぎ優れモノ」に認定されました。

「サーマックス」は、厚さ20mm、1kg/㎡と軽量のため、体育館やプールの天井にも利用されています。昨年の震災後、「サーマックス」を天井の断熱材として利用している建物を見て歩いたのですが、天井が落ちた所は1カ所もありませんでした。プール等で天井の石膏ボードが落下し利用者がけがをする事故が起きることがありますが、「サーマックス」の場合は万が一落ちてしまっても軽量ですので、あまり影響はないと思えます。



「サーマックス」の写真

豊かな社会の実現

——環境方針・品質方針についてお聞かせ下さい。

環境に関しては、次の世代、その先の世代のためにも、企業としてできる限りのことをしていかなければならないと考えています。当社では、「環境と調和するテクノロジーと環境を大切にする企業活動を通して、かけがえのない地球の自然環境を尊重し、人々の健康を守る豊かな社会の実現に貢献します」という環境方針を策定し、環境問題に取り組んでいます。

具体的には、温暖化防止のための二酸化炭素排出量の低減、産業廃棄物削減のためのゼロエミッション等を行っています。例えば、自動車関連部品の製造過程で樹脂の廃材が出てしまうのですが、その廃材をOAフロアに利用したりしています。OAフロアとは、通常の床の上にインターネット配線等を収納するための一定の高さの空間をとり、その上に別の床を設けて二重の床を作ることで、家具等に影響されずに配線ができることや、配線が通行の支障とならない等のメリットがあります。また、現在ウレタンの廃材を利用した製品開発にも取り組んでいます。

品質に関しても「お客様により高い信頼を得る製品を提供する」という品質方針を策定し、お客様に満足していただける製品作りに取り組んでいます。品質マネジメントシステムを構築し、製品の継続的改善を行っています。また、品質目標を設定し、その達成度を検証することで、現状の把握・改善点の理解を行い、より質の高い製品作りを目指しています。

平成13年には、組織活動が環境に及ぼす影響を最小限に食い止めることを目的に定められた、環境に関する国際規格であるISO14001を認証取得し、翌年には、品質管理及び品質保証に関する国際規格であるISO9001を認証取得しました。当社では、環境と品質は一体のものだと考えています。ISOに関しても当時は別々に取得しましたが、現在の継続審査では複合審査という形式で環境・品質の両方を外部機関に審査して頂いています。今以上にレベルア

ップできるよう、これからも環境対策・品質管理に取り組んでいきたいと思ひます。

また、このような考えが経営者だけのものにならないよう、環境方針・品質方針ともに、基本理念、それに基づいた行動指針を記載したカードを全社員に配布し、企業としての方針や理念の周知徹底に努めています。



製造工場

——地域貢献への取り組みについて教えてください。

地域貢献と言えるような立派なものではありませんが、地域の方々からの要望にはできるだけお応えしたいと思っています。

例えば、企業訪問や工場見学として年間で10校ほどの小学校や高校、大学を受け入れています。小学生は社会見学のため、高校・大学生は就職活動の一環として等、工場見学の目的は様々ですが、当社の事業に興味・関心を持って頂けることを大変嬉しく思っています。また、地元からの雇用に努め毎年地元から5名ほど従業員を採用しています。

夏になると「花火大会を企画してもらえませんか」と要望が多く、近くの小学校で夏祭りを開催したこともあります。その他には養護学校へ作業依頼やグラウンドの提供、リビング製品等のアウトレットセールを行っています。

また、小牛田桜まつりや各地域の産業まつりにも参加させて頂いています。このような地域行事は、地域の方々との親交を深めるよい機会ですので、これからも積極的に参加させて頂きたいと思ひます。



北上工場 小学生の工場見学

震災後10日で稼働

——震災時の状況について教えてください。

ライフラインの寸断はもちろんのこと、建物そのものにも大きな被害を受けました。すぐに小牛田工場を宿泊所兼対策本部とし、従業員の安否確認と工場の復旧状況の確認を行いました。従業員の安否は比較的早く確認が取れたのですが、従業員の家族までとなると確認に時間がかかってしまいました。従業員全員の安否を確認した後も余震が続いていたので、従業員に帰宅するよう伝えました。幸い、帰宅後にけがをした人はいませんでしたが、今はこの判断が正しかったのか分かりません。本当は帰さずに工場に残ってもらった方がよかったのではないかとも思ひます。企業としての判断とは本当に難しいですね。現在、震災時の対応を見直し、安否確認の方法や災害伝言ダイヤルの使い方等を訓練しています。建物については、いくつかのプレハブ倉庫は修復が困難と判断し、取り壊しを行いました。

当社はサプライチェーンを担う企業として、数多くのお取引先に多様な部品をお届けすることが最大の使命です。大きな被害を受けながら、10日ほどで工場を稼働させることができたのは従業員が休みを返上して工場の復旧に取り組んでくれたおかげだと思っています。実家が津波に流されてしまった人もいる中で、会社のために一生懸命働いてくれたことに本当に感謝しています。また、周囲の業者さんやお取引先のみなさんにも助けて頂きました。ある

建設業者の社長さんは「建物が心配だったから」と震災当日に吹雪の中を自転車で駆け付けてくれました。お取引先の方々も今後の生産については一切触れず、「大丈夫ですか。困ったことがあったら遠慮なく言って下さい。」と温かいお言葉をかけてくださいました。



若柳工場 震災後の様子

開発と改善

——今後の事業展開について教えてください。

まずは、各事業のバランスをとることです。近年、自動車関連に比較的大きな設備投資を行い、大型の成型機等を導入しました。おかげさまで生産は好調で売上全体の約6割を占めています。しかし、当社の経営理念はひとつの事業に特化するのではなく、幅広い産業分野に製品やサービスを提供することなので、自動車関連のみに頼ることなく、自動車関連と非自動車関連の比率をバランスよくしたいと思っています。

また、今後ますますお客様のニーズは多様化していくと思います。本当に必要とされているもの、お客様に満足して頂けるものを提供していくためにも、常に新しい商品開発に取り組んでいかなければならないと思います。現在取り組んでいるものは、ゴムの押し出し製品で身近に使えるものや、ポリプロピレン（PP）を利用した製品を開発中です。PPはプラスチックの中で最も比重が小さく、圧縮強度や衝撃強度も強い素材なので、様々な製品に利用することができると思っています。

——会社経営で大切だと思われることをお聞かせ下さい。

当社がこれまでやってこれたのは、時代の流れ、日々変化するお客様のニーズに応える製品を作ることができたからだと思っています。技術の発展、ニーズの多様化により「永遠に1番」という製品を作ることが難しい時代になっています。今求められているものが5年、10年先も求められているかという、そうではないことの方が多くあるように思います。そのため、時代と共に変わるニーズに合わせて、当社も変わっていかなければならないと思っています。

イノアックグループの経営理念であります「1本の大きな木を育てるより多くの個性ある木を育て美しい森をつくる」に基づいて、幅広い事業を行いながら、常にお客様のニーズに応えることができる企業になりたいと思います。そのためにも、現状に満足することなく継続的に開発と改善と行っていきたいと思います。



高橋専務

長時間にわたりありがとうございました。御社の今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

(24. 9. 4取材)